

修正概要

(1) 多様な主体と連携した被災者支援

都道府県による災害中間支援組織の育成・強化、関係者の役割分担の明確化
 災害ボランティアセンター設置予定場所の明確化
 災害ケースマネジメントなどの被災者支援の仕組みの整備

(2) 県民への情報伝達

障害者の情報取得・意思疎通に係る施策の推進

(3) デジタル技術の活用

被災者台帳、避難行動要支援者名簿の作成等へのデジタル技術の活用

災害ケースマネジメントとは

被災者一人ひとりの被災状況や生活状況の課題等を個別の相談等により把握した上で、必要に応じ専門的な能力を持つ関係者と連携しながら、当該課題等の解消に向けて継続的に支援することにより、被災者の自立・生活再建が進むようマネジメントする取組

(1) 多様な主体と連携した被災者支援

分野	一般ボランティア(災害VC)	NPO・NGO等
被災家屋	(ニーズ把握) 土砂出し、家財出し、片づけ・清掃	重機での土砂等、床・壁・屋根の応急措置 廃棄物の分別・回収、住宅再建の相談・講習会
避難所	災害VCでの対応範囲は限られていることが多い しかし、災害VCには住民から多様なニーズが寄せられる	アセスメント、物資、環境整備、炊出し、サロン傾聴、ジェンダー的配慮、ペット、運営
在宅避難者		実態把握調査 物資、家電、食事
応急仮設住宅	災害VCで対応できないニーズをどうつなぐかも重要な役割	引越し、物資・家電、集会場、公民館への備品、サロン、見守り支援
生業支援		農地からの土砂・廃棄物等撤去 商店街の片づけ・清掃、資機材
要配慮者		福祉施設への支援、相談支援・資金支援 こどもの居場所・学習支援、学用品など、翻訳・通訳

多様なニーズ ← (左向き矢印) / (右向き矢印) → 多様な支援

(3) デジタル技術の活用

